

長谷虎紡績株式会社

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2026年8月3日



大垣共立銀行とOKB総研は、長谷虎紡績株式会社（以下、「同社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) 長谷虎紡績株式会社の企業概要.....	1
(2) 長谷虎紡績株式会社の事業概要.....	4
(3) 経営理念	10
(4) サステナビリティ.....	12
2. インパクトの特定	16
(1) バリューチェーン分析.....	16
(2) インパクトマッピング	17
(3) インパクトレーダーによるマッピング	17
(4) 特定したインパクト.....	20
(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認	23
3. インパクトの評価	25
4. モニタリング.....	27
(1) 長谷虎紡績株式会社におけるインパクトの管理体制	27
(2) 大垣共立銀行によるモニタリング	27

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) 長谷虎紡績株式会社の企業概要

企業名	長谷虎紡績株式会社
創業	1887年6月1日
設立	1947年1月8日
代表者名	長谷 享治
資本金	9,500万円
従業員	179名（2026年5月31日時点）
売上高	8,720百万円（2025年10月期）
事業拠点	本社 本社工場 岐阜県羽島市江吉良町 197-1 平方工場 岐阜県羽島市福寿町平方 2300 大阪営業所 大阪市中央区高麗橋 4丁目6番15号 東京営業所 東京都中央区日本橋浜町 2-5-3
事業内容	各種繊維製品ならびにカーペットの製造・加工・販売
関連会社	株式会社長谷虎リネンサービス（繊維全般の原資材、商品の開発・製造） 長谷虎興業株式会社（グループ各社の不動産管理） 株式会社ハイボーン（カーペットの後染め加工及び販売） 株式会社ファーベスト（繊維・機能素材の開発・製造）



長谷虎紡績株式会社

<本社・本社工場>



<大阪営業所>



＜沿革＞

1887 年	初代が岐阜県羽島市江吉良町に長谷製糸工場を創業
1937 年	二代目が長谷絹布工場に改称
1943 年	三代目が長谷虎製麻工場所を設立
1947 年	長谷虎産業株式会社として法人成 綿糸の生産を開始
1951 年	長谷虎紡績株式会社に改称
1961 年	羽島市福寿町に新工場を建設しカーペットの生産を開始
1968 年	ダストコントロールをテーマとした玄関マット（ダスキンマット）の生産を開始
1969 年	合併会社豊田化工株式会社を設立 車輻カーマットの生産を開始
1970 年	カーペットの後染ウインス染色設備を導入 株式会社ハイボーン設立
1976 年	カーペットの後染連続染色設備を導入 車輻カーマットのナイロン後染化を開始
1980 年	コンピューター・ジェット（CJ®）ロールカーペット染色設備を導入
1983 年	カーペット JIS 表示工場となる
1984 年	自動車用純正用品マットの生産を開始
1985 年	コンピューター・ジェット（CJ®）を商標登録
1986 年	大阪ビル新築
1987 年	創業百周年記念事業を実施 四代目社長に現会長が就任 コンピューター・ジェット（CJ®）カーペットタイル設備を導入
1989 年	CJ®カーペット（クレーター柄）が第 27 回全国繊維技術展で通産大臣賞受賞 発明表彰にて同社が開発したタフティングマシンが岐阜県知事賞を受賞
1990 年	本社工場の集約合理化を実施 特殊糸による多品種少量生産体制が整う
2003 年	Eコマース認定のリサイクルカーペットタイル生産を開始
2004 年	中国上海に上海豊虎汽車地毯有限公司を設立

2005 年	船舶カーペットの生産を開始
2006 年	平方工場にて ISO9001 認証取得
2013 年	コンピューター・ジェット (CJ®) カーペットタイル 最新染色設備を導入し航空機カーペットの生産を開始 新型クラウンの車両用カーペットで異目付ハイブリッドタフトが採用され、トヨタ自動車およびトヨタ紡織より技術賞を受賞
2016 年	コンピューター・ジェット (CJ®) ロールカーペット 最新染色設備を導入
2019 年	織研新聞主催第 49 回織研合織賞 (2018 年度) にてハイブリッドクリーンダウン光電子プロ※が織研新聞社創業 70 周年記念賞を受賞 五代目社長に現代表者が就任
2020 年	ナノファイバー繊維会社 スピタージュ株式会社を設立
2023 年	本社工場の設備増強工事 開発ラインの新設と衣料用二層構造糸の生産開始 ヘラルボニー社との協業でヘラルボニーアートのカーペット生産開始 FiberCraze 社へ出資 岐阜県域のディープレックエコシステムの共創を本格化 FC 岐阜との協働プロジェクトとして羽毛製品回収プロジェクト始動
2025 年	東京事務所を現地に移転 ユナイテッド・シルク社へ出資 シルク事業を繊維以外の分野へ展開し、新たな産業創出を目指す
2026 年	環境配慮型・次世代燃糸工場『Knowledge Innovation Hub』が竣工

※ ダウンと化繊のハイブリッド構造でリサイクルダウンを使用。光電子で体温を再利用する。通常の光電子ダウンの上位版 (PRO) であり、同社と株式会社ファーストを含む 4 社で共同開発した。

<次世代燃糸イノベーション・ハブ>



（２）長谷虎紡績株式会社の事業概要

創業以来、糸づくりから生地、製品へと繊維事業を拡大してきた。現在は産業資材としての糸はもちろん、アパレルや家庭用品など幅広い分野の繊維製品を生み出している。OEM を中心に、企画立案から量産までワンストップでニーズに応えている。

また、暮らしが欧米化してきた 1961 年にカーペット事業を開始した。以降、オフィスや商業施設のフロアを彩るカーペットから、各種競技施設的人工芝、自動車や航空機の内装カーペットまで、広い面積を占める「床」を通して豊かな空間づくりに貢献している。

【事業内容】

・ 紡績事業

衣料分野向けの繊維や、繊維を使った生活用品などを開発・生産している。アウトドア衣料やスポーツ衣料に適した高機能繊維に力を入れ、近年では不要となったダウンジャケットなどを無料回収して羽毛を再利用する取り組みも行っている。また生活用品としては、ダストコントロール用マットやモップなどのレンタル用品をはじめ、顧客ニーズに合わせた多彩な商品を生み出している。さらに、長短複合の二層構造糸や、宇宙ロケット素材の一部に使われる特殊糸「カインール」など、産業資材としての繊維も提供することで産業の発展に貢献している。



【工程】

① 混打綿工程

運搬のため硬く圧縮、梱包された原綿を開梱のうえ、製品に応じた各種原綿を混綿し開綿することにより、その中に含まれている不純物を除去し均整なラップを作る。

② カード工程

繊維を一本一本に分離し、平行に引き揃え、綿の中に残存する不純物、短繊維を除去し斑のない紐状のスライバーをケンスにコイル状で収容する。

③ コーマ工程

混打綿工程、カード工程で短繊維を完全に除去することは難しいため、この工程により残った短繊維や不純物を除去し、繊維を平行に引き揃えることによって清浄、均整なスライバーを作る。

④ 練糸工程

カード工程及びコーマ工程で作られたスライバーは、まだ太細の斑があり、平行に並べられていないため、以下の2つの工程を行う。

- 通常8本のスライバーを併合して、これをドラフト（引き抜き作用）し均整にする。
- ドラフトを3回繰り返し繊維1本1本の方向性が揃った均整なスライバーを作る。



⑤ 粗紡工程

スライバーを次工程の精紡機に掛けられるように、更にドラフトをかけ撚りを与えて取り扱いやすいようにボビンに巻き付ける。



⑥ 精紡工程

粗糸を所要の太さにドラフトし、これに撚りを与えて糸とし、ボビンに巻き取る。



⑦ ワインダー工程

精紡管糸を継ぎ足し、長く連続した糸として巻き返す。適当な形状や硬さに巻き、糸張力を適正にする。



⑧ 荷造り工程

顧客の依頼を受ける重量に巻き取られた製品を規定数量段ボールケースに入れ梱包する。

・ インテリア事業

オフィスやホテルなどに向けた一般カーペット分野から、人工芝などのスポーツ分野、自動車用マットなどのモビリティ分野まで幅広いニーズに対応。1980年、当時は世界で3台目だった、先進のコンピューター制御による後染め機「コンピューター・ジェット・ダイ（CJ®）」を導入。これにより、糸を染色してから織るという従来の方法（先染め）では困難だった柄もデザイン可能になった。近年では障がいのある作家のアートカーペット化したり、海洋汚染の原因となる漁網などを再利用した原料を使ったりと、SDGsに直結した取り組みも進めている。



【工程】

① タフト工程

「基布」という長いシート状の布に刺繍ミシンのように針で糸を植え付けていく（タフトしていく）工程。植え付けた糸でタオルのようなパイルができ、その高さや密度を変えることで、踏み心地や柄の細かさなどが違うカーペットが出来上がる。

※ 先染めの場合は色のついた糸を植え付けていくことでデザインを表現する。



② 染色工程（後染めの場合）

タフト工程で作った白いカーペットに用途に合わせた3種類の染色工程を行う。

➤ CJ

糊入りの染料でプリンターのように着色する工程。色が落ちないようにスチーマーで染料を固定した後、糊や余分な染料を落とし乾燥する。複雑なデザインに使用する。

➤ 連続染色

染料にくぐらせて着色する工程。色が落ちないようにスチーマーで染料を固定した後、糊や余分な染料を落とし乾燥する。1色のみのデザインを大量に生産する場合に使用する。

➤ ウィンス

釜の中で回しながら着色する工程。時間をかけてゆっくりと染めるため、根本までしっかりと染まる深い味わいのあるデザインに使用する。

③ 加工工程

植え付けた糸を引っ張っても抜けないように、また、伸びたり縮んだりしないように裏面に接着剤と別の素材を張り合わせる工程。

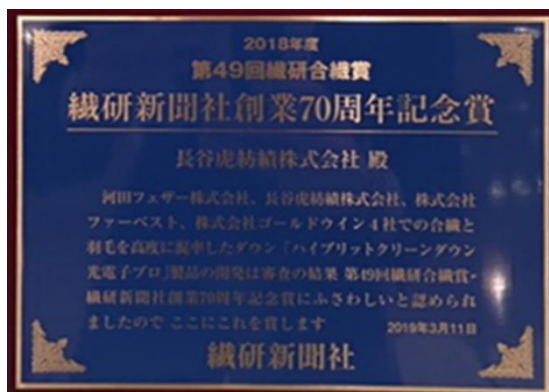


【同社の強み】

• 紡績事業

- 一般の紡績工場は繊維の長さによって設備が固定化されているが、同社の工場は綿紡績、化合繊維紡績、羊毛紡績の各設備を融合させており 25mm～80mmまでの繊維の紡績が同一工場に対応出来る。
- 素材から最終ガーメントまで、一貫した生産体制により“要求品質のつくり込み”を実現している。
- さまざまな高機能繊維を製造している。「光電子プロ」は、セラミックを練り込むことで遠赤外線を輻射し、人の体温を快適に保つことから、アウトドアやスポーツ向けのアパレル分野で注目されている。また、世界唯一のフェノール系ノボロイド繊維「カイノール」は、熱による溶融がなく化学薬品にも強いいため、電子部品や宇宙ロケットの素材として活用されている。

＜光電子プロ 織研新聞社創業 70 周年記念賞＞



- ・ インテリア事業

- デザインからタフト工程、染色工程、加工工程まで一貫生産が可能。
- 色の調合から行っている為、顧客の要望通りの染色が出来る。
- 日本にタフトカーペットが入ってきた当初から生産を続けており、各分野大手への納入実績がある。
- インテリア事業では、日本に1台しかない、高密度なカーペットが作れる1/16Gのタフティングマシンを備えている。このマシンは緻密な柄を表現でき、しっかりとした踏み心地で耐久性にも優れたカーペットを作ることができる。また、コンピューター制御による後染め機も導入し、自由度の高い表現や小ロット・短納期を実現している。

【今後の展開】

- ・ 地球環境問題に目を向け、「2030年までに80%以上の素材・製品を環境に配慮したものに置き換える」という大きい目標を掲げている。環境配慮には、①商品として環境配慮型を増やす②製造工程を環境配慮型に転換するといった二つの側面がある。商品面では紡績で発生する落ち綿の再生に取り組んでいる。落ち綿を反毛というリサイクル原料に再加工し、これを自動車や土木などの分野に販売するなどの取り組みを開始した。また、製造面では数値目標を設定し取り組んでいる。CO₂の排出では毎年1%削減を熱源の合理化や省エネ化で対応するほか、生産効率が悪い高性能繊維であっても技術革新や工程運用の工夫などにより歩留まり率の改善などを進めている。
- ・ 洋服の素材は大きく化学繊維と天然繊維に分かれるが、化学繊維は分解されず燃焼時にはCO₂を多く排出するなど環境負荷が大きい。そのため、同社はベンチャー企業と連携し、人工タンパク質素材の開発（自然界で最も強いとされるクモや蚕の糸を人工的に培養して生み出す技術）に取り組んでいる。既に海外ブランドで採用されており、この事業を拡大していく。
- ・ 同社は、これまで特殊繊維の撚糸工程の一部を外部に委託してきた。しかし、品質に対する要求の高度化や市場環境の変化に対応し、安定的かつ持続可能なものづくり体制を構築するため、撚糸工程の内製化に踏み切るべく2026年5月に次世代撚糸イノベーション・ハブ（新工場）を建設した。これにより、同社が強みとする特殊繊維において、原料から製品に至るまでの一貫した品質管理が可能となった。今後も「素材で世界を変える」というミッションのもと、知識製造業として、時代の変化に対応し続ける企業であり続け、さらなる価値創造に挑戦していく。
- ・ 同社は、将来的な日本の安全と平和のためには、素材、食糧、エネルギーの自給率を上げていくことが重要で、そこに社会課題解決のチャンスがあると考えている。そのために、素材、食料、エネルギー、環境等の領域への出資を行い、素材や製品開発を進めている。同社の今後の100年を見据えた事業を考え、技術連携を前提とし、繊維の枠を超えた分野にも出資を進めていく。
- ・ 創業者が掲げた「地域との共存共栄」という強い想いをこれからも受け継いでいく。地域貢献の一つとして地元の小中学生の社会見学先として同社工場を公開し、繊維で栄え、現在も全国的な繊維産地の一つが尾州地域であると説明している。尾州地域からナノファイバー等の新素材を使った商品が更に日本や海外に供給されることにより、地域社会の活性化につなげていく。

- 同社は、岐阜テックプランター※に地域パートナーとして参加。

※ 岐阜テックプランター（現：東海テックプランター）

岐阜県を中心とした研究機関の研究者、テクノロジーベンチャー企業の発掘・育成をしていくことで、持続的に産業が創出されるエコシステムの構築を目指している。科学技術や情熱をもって岐阜から世界を変えようとするチームを発掘・育成することを目的に 2021 年に「第 1 回岐阜テックプラングランプリ」が開催された。2022 年「第 2 回岐阜テックグランプリ」において、株式会社 Helical Fusion がテーマ「ヘリカル型核融合炉の開発および社会実装」により“最優秀賞”と“長谷虎紡績賞”をダブル受賞。



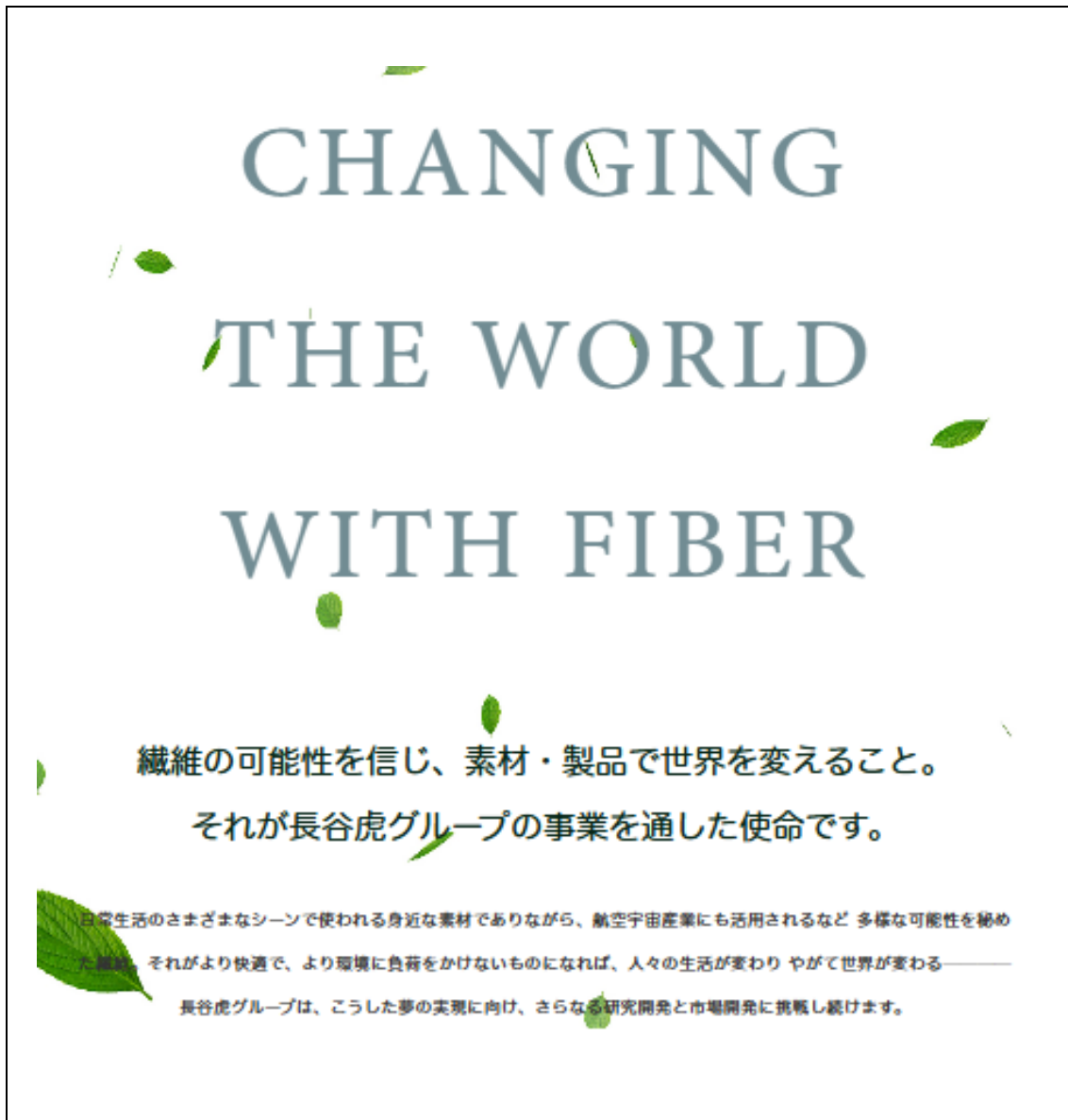
- 上記経緯から、同社は核融合炉開発を手がける株式会社 Helical Fusion の「ヘリックス計画」にコアパートナーとして参画を決定。フュージョンエネルギー（核融合）による実用発電の達成と産業創造のための支援を行っている。



(3) 経営理念

同社は、創業以来の伝統である「三方よし」「共存共栄」の精神を受け継ぎつつ、今後も素材メーカーや加工場といった社外パートナー企業と連携しながら、新たな投資や素材の研究開発を推し進め、環境負荷の少ないサプライチェーンの構築を目指すべく、以下の理念を掲げて、事業活動に取り組んでいる。

【企業理念】



CHANGING
THE WORLD
WITH FIBER

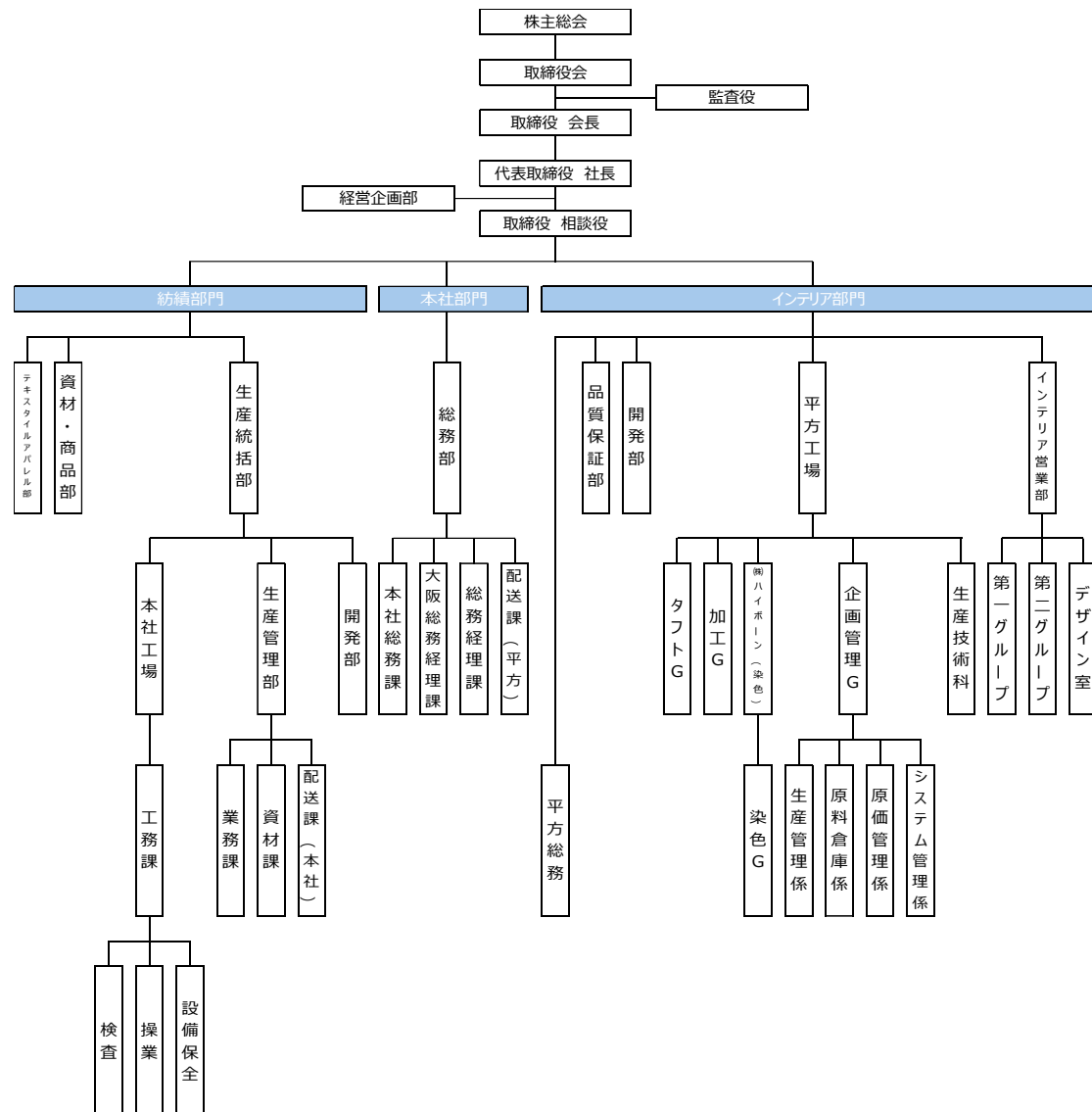
繊維の可能性を信じ、素材・製品で世界を変えること。
それが長谷虎グループの事業を通した使命です。

日常生活のさまざまなシーンで使われる身近な素材でありながら、航空宇宙産業にも活用されるなど 多様な可能性を秘めた繊維。それがより快適で、より環境に負荷をかけないものになれば、人々の生活が変わり やがて世界が変わる——

長谷虎グループは、こうした夢の実現に向け、さらなる研究開発と市場開発に挑戦し続けます。

- 毎日の朝礼において、全従業員で企業理念の唱和を行っている。また、会議室等に企業理念を掲示し、グループ企業を含めた全従業員への周知徹底を図っている。

【組織体制】



(4) サステナビリティ

同社は SDGs 宣言を定め、これを指針として課題に取り組み、ぎふ SDGs ゴールドパートナー認定を受けている。

① 健やかな地球環境を次世代につなぐ

事業活動を通じて環境負荷の削減に取り組む

- 環境配慮型経営「3080」
- 合成繊維における循環型システムの構築
- カーボンニュートラルの推進
- DX の推進による生産性・効率性の向上



② 誰もが安心・安全に暮らせる地域・社会づくり

事業活動を通じた社会的課題解決への貢献

- 安全・衛生・健康を最優先とし、人間尊重の企業活動を推進する
- 繊維素材でのイノベーションへの挑戦
- グループ全体で取り組む BCP 策定と定期訓練の実施
- 自警団による防災訓練



③ 活力ある組織づくり

誰もがやりがいをもって活躍できる機会を創出

- 環境整備の徹底（普通道徳・当たり前の徹底）
- 人財育成の強化
- ステークホルダーとのパートナーシップ推進
- エンゲージメント向上への取り組み



<SDGs 宣言以外>

➤ 環境対策

- TEDxNagoyaU 2026 energy flow のワークショップへの参加（名古屋大学豊田講堂）

アパレル産業が業界2位の汚染産業となっている実態や、衣服が及ぼす環境汚染の影響というマイナスな面を知らせるとともに、衣服の可能性について考えてほしいといった思いから、ワークショップ「100年後の衣服を考えよう！」を実施した。



- 循環フェス名古屋への協賛

環境問題、サステナブルな社会のために行動するこの地域の NPO・企業・行政・大学生有志が中心となり、衣類や羽毛製品などの“循環”をテーマとしたムーブメントを起こしたいと開催された。廃棄される衣服が2倍以上に膨れ上がっており、古着の新しい循環の仕組みを若者世代に広げる活動に協賛している。



- 羽毛製品回収を実施

岐阜羽島駅前で開催された「羽島駅前フェス」や羽島市役所駐車場で開催された「はしま de マルシェ」等に出席し、羽毛回収を実施。その他、FC 岐阜との協力によるサッカー教室開催等のイベントや FC 岐阜の試合会場においても羽毛製品を回収するなど、資源リサイクルや環境保護に貢献している。

➤ 地域貢献

• FC 岐阜との取り組み

① ドリームプロジェクト年2回開催（地元小中学校、特別支援学校）



② サッカー教室年2回開催（地元小中学校、特別支援学校）



③ サクスマッチ開催

ギフイーウェア 背中



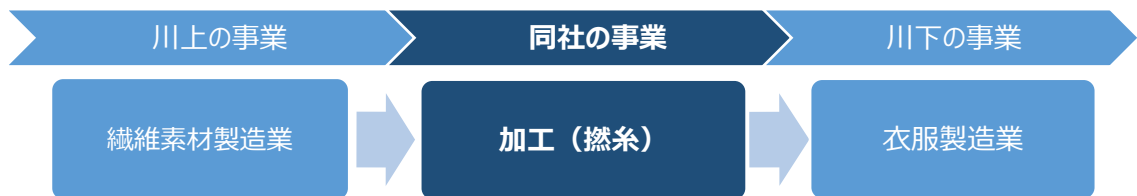
- 特別支援学校で写真撮影記念プロジェクトを実施
羽島市の特別支援学校で高等部 3 年生 18 人を対象とした写真撮影の記念プロジェクトを実施。卒業式では同社のシルク 100%のスカーフを 3 年生全員に贈った。
- 竹鼻小学校を訪問
2021 年以降、毎年、同社社員が竹鼻小学校で課外授業を実施し、「綿花から糸ができるまで」を紹介している。また、工場内でどのように糸をつくっているのかを見学したいとの要望があった場合には工場見学も実施している。
- 工場見学の実施
福寿小学校や竹鼻中学校、羽島高等学校等の学生向け工場見学を実施。
- インターンシップの実施
大垣桜高校の学生にインターンシップを実施。
- 出張講義
代表者が岐阜協立大学で出張授業を実施。代表者が、現在の繊維産業の状況や環境問題への取組などについて講義を行う。
- 能登半島地震への義援金を拠出
グループ会社 5 社による義援金 100 万円と社員一同より寄付金 80,697 円を募り、被災地に寄附。

2. インパクトの特定

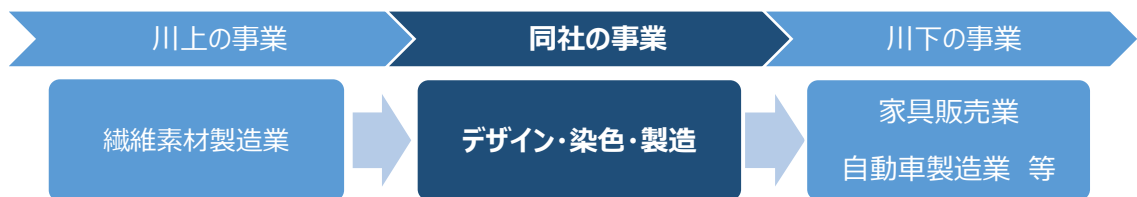
(1) バリューチェーン分析

- 同社は、紡績・織布・染色・縫製までを一貫して手がける総合テキスタイルメーカーである。天然繊維から合成繊維まで多種多様な素材を扱い、糸の開発・生産を基盤としながら、幅広い産業分野に製品を提供している。
- 紡績事業においては、シルク、麻、綿といった伝統素材に加え、合成繊維や長短複合糸など、高機能・高付加価値素材の開発に取り組んでいる。これにより、ワークウェアやユニフォーム、産業資材といった機能性が求められる分野において強みを発揮している。また、電子部品用途や航空宇宙産業向けの資材など、先端分野にも展開しており、繊維の可能性を多角的に広げている。
- インテリア事業においては、オフィス・ホテル・商業施設向けのカーペット、スポーツ施設向け人工芝、自動車・航空機内装用カーペットなどを製造している。企画段階から量産まで一体で対応することで、顧客企業の製品開発をトータルに支援し、多様化・高度化するニーズに応えている。
- また、同社の事業は単なる製品供給にとどまらず、素材開発力と提案力を通じて顧客の付加価値創出を支えている。人工タンパク質素材などの先端技術開発にも注力し、環境配慮型素材の提供や新たな用途開拓を推進している。これにより、快適性と環境性能を両立した製品の創出を通じて、社会課題の解決にも貢献している。

【紡績事業】



【インテリア事業】



(2) インパクトマッピング

- 大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。

(3) インパクトレーダーによるマッピング

【紡績事業】

- 同社の事業を、「織物繊維準備業及び紡績業（国際標準分類：1311）」、「織物業（同：1312）」、「人造繊維製造業（同：2030）」とする。
- 川上の事業を、「繊維性作物の栽培（同：0116）」とする。
- 川下の事業を、「衣服製造業（同：1410）」とする。

バリューチェーン			川上の事業		同社の事業						川下の事業	
業種 (国際標準産業分類コード)			繊維性作物の栽培 (0116)		織物繊維準備業及び紡績業 (1311)		織物業 (1312)		人造繊維製造業 (2030)		衣服製造業 (1410)	
大分類	インパクトエリア	インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
社会	人権と人の安全保障	紛争										
		現代の奴隷制度		●●		●●		●●				●●
		児童労働		●●		●●		●●				●●
		データのプライバシー										
		自然災害		●●								
	健康と安全	健康と安全	●●	●●	●	●●	●	●●		●	●	●●
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	水		●●		●●		●●			●	●●
		食糧		●								
		エネルギー										
		住居										
		健康と衛生										
		教育										
		移動手段										
		情報										
		コネクティビティ										
		文化と伝統										
		ファイナンス										
	生活	雇用	●●		●		●		●		●	
		賃金	●	●●	●	●●	●	●●	●	●●	●	●●
		社会的保護		●●		●		●		●		●
	平等と正義	ジェンダー平等		●●		●●		●●				●●
		民族/人種の平等		●●								
		年齢差別										
		その他の社会的弱者		●●		●●		●●				●●
社会経済	強力な制度、平和、安定	法の支配										
		市民的自由										
	健全な経済	セクターの多様性										
		零細・中小企業の振興	●		●		●				●	
	インフラ	インフラ										
自然環境	経済収束	経済収束										
	気候の安定性	気候の安定性		●●		●●		●●		●●		●
		水域		●●		●●		●●		●●		●●
		大気				●		●		●●		●
		土壌		●●						●●		
		生物種		●●						●		
		生態系		●●		●●				●		
	サーキュラリティ	資源強度		●●		●●		●●		●●		●●
		廃棄物		●●		●●		●●		●●		●●

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

【インテリア事業】

- 同社の事業を、「繊維繊維準備業及び紡績業（同：1311）」、「じゅうたん及び敷物製造業（同：1393）」とする。
- 川上の事業を、「繊維性作物の栽培（同：0116）」とする。
- 川下の事業を、「専門店による繊維物小売業（同：4751）」とする。

バリューチェーン			川上の事業		同社の事業				川下の事業	
業種 (国際標準産業分類コード)			繊維性作物の栽培 (0116)		繊維繊維準備業及び紡績業 (1311)		じゅうたん及び敷物製造業 (1393)		専門店による繊維物小売業 (4751)	
大分類	インパクトエリア	インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
社会	人格と人の安全保障	紛争								
		現代の奴隷制度		●●		●●		●●		
		児童労働		●●		●●		●●		
		データのプライバシー								
		自然災害		●●						
	健康と安全	健康と安全	●●	●●	●	●●		●●	●	●
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	水		●●		●●				
		食糧		●						
		エネルギー								
		住居					●			
		健康と衛生								
		教育								
		移動手段								
		情報								
		コネクティビティ								
		文化と伝統								
		ファイナンス								
	生活	雇用	●●		●		●		●	
		賃金	●	●●	●	●●	●	●●	●	
		社会的保護		●●		●		●		●
	平等と正義	ジェンダー平等		●●		●●		●●		
		民族/人種の平等		●●						
		年齢差別								
		その他の社会的弱者		●●		●●		●●		
社会経済	強力な制度、平和、安定	法の支配								
		市民的自由								
	健全な経済	セクターの多様性								
		零細・中小企業の繁栄	●		●		●		●●	
	インフラ	インフラ								
自然環境	経済収束	経済収束								
	気候の安定性	気候の安定性		●●		●●		●●		
		水域		●●		●●		●●		
	生物多様性と健全な生態系	大気				●		●		
		土壌		●●						
		生物種		●●						
		生息地		●●		●●				
	サーキュラリティ	資源強度		●●		●●		●●		
		廃棄物		●●		●●		●●		●

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

川上・同社・川下の事業において発現したインパクトについて、カテゴリ毎の対応するSDGsターゲットを整理する。
 なお、川上・川下の事業は、同社が与える影響は限定的であるため、インパクトを特定しない。

【紡績事業】

	大分類	インパクトエリア	インパクト	PI		取組内容	対応するSDGs
				PI	NI		
同社	社会	健康と安全	健康と安全	○	○	同社が開発した「光電子」素材には、リラクセーション効果、疲労の軽減・回復、睡眠の質向上という3つの効果があり、この素材を使用した製品は、着用者の健康改善に寄与している。 安全衛生向上を目的とした会議を毎月開催することで、労働災害防止に取り組んでいる。 残業時間は月平均3.7時間と少ない。有給休暇の取得率向上にも取り組み、従業員のワークライフバランス向上に取り組んでいく。	3 8.8
		生活	雇用	○		「色彩検定1級2級」、「公害防止管理者水質4種」などの自己啓発支援制度を設け、従業員の技能向上を支援している。 毎年10名以上の新規採用を目指し、安定的な雇用創出に取り組んでいる。	8.5
		平等と正義	ジェンダー平等	○		女性従業員の管理職への登用等を積極的に行っていく方針である。	8.5 8.8
	社会経済	インフラ	インフラ	○		環境配慮素材の開発や、どんな素材でも糸にする高度な技術と品質管理により、繊維産業の持続可能な成長に貢献している。	9.1
	自然環境	気候の安定性	気候の安定性		○	製造時の温室効果ガス排出量や水使用量を削減できる、人工タンパク質素材の開発、事業拡大を推進している。 ・熱源の合理化や省エネ化によりCO ₂ 排出量を毎年1%削減する目標を掲げている。	13.2
		サーキュラリティ	廃棄物		○	落ち綿をリサイクル原料に再加工して再利用している。 衣服の廃棄への課題解消に向けた情報発信を行っている。 不要となったダウンジャケット等を回収し、羽毛を再利用している。	12.5

※同社の「ジェンダー平等」「インフラ」のPIは、同社固有のインパクトとして追加する。

※インパクトリーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低いと評価対象外とした。

【インテリア事業】

	大分類	インパクトエリア	インパクト	PI		取組内容	対応するSDGs
				PI	NI		
同社	社会	平等と正義	その他の社会的弱者	○		障がいのある作家の作品をカーペット化する取組を推進している。	8.5
	社会経済	インフラ	インフラ	○		デザイン提案からタフト（織り）、染色、加工までの一貫生産体制と、他社が真似できない高度で高付加価値な特殊技術により、顧客の要望に応えることができる。 住宅や自動車の内装製品を通じて快適で安心な住環境を提供し、人々の生活基盤の質向上に貢献している。	9.1
	自然環境	サーキュラリティ	廃棄物		○	海洋汚染の原因となる廃棄漁網などを再利用したりリサイクルナイロンを原料とするカーペットを展開することで、環境負荷低減に貢献している。	12.5

※同社の「その他の社会的弱者」「インフラ」のPIは、同社固有のインパクトとして追加する。

※インパクトリーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低いと評価対象外とした。

(4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトをE S G（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

環境（Environment）

環境に配慮した経営の推進

- 同社は、「素材で世界を変える」を掲げ、サプライチェーン全体で環境負荷を低減する経営を進めている。
- CO₂ 排出量削減では、原材料段階からの環境配慮を重視している。石油由来素材に代わり、植物由来の人工タンパク質繊維などの低炭素素材を活用することで、製造過程における CO₂ 排出を大幅に抑制している。また、単なる排出削減にとどまらず、地域の自然資本を回復する「ネイチャーポジティブ経営」を推進しており、工場排水が生態系へ与える影響の可視化や環境改善に取り組むことで、産業活動と自然の共生を目指している。今後は、2026 年度中に CO₂排出量の算定と削減計画を策定し、数値管理に基づく脱炭素経営へ移行を進めている。
- 廃棄物削減に関しては、原材料から製品までの一貫体制を活かし、発生抑制と資源循環の両立を図っている。原料は買取や再活用を前提とし、製品不良についても安価販売することで、廃棄物の発生を極小化している。また、不要となった羽毛製品や古着の回収・リサイクル活動を地域と連携して実施し、焼却に伴う CO₂ 排出削減と廃棄物削減を両立している。さらに、サプライチェーン全体での循環型ビジネス構築を志向し、使用済み繊維の再資源化や環境配慮素材への転換を推進している。2030 年度までに製品の 80%を環境配慮型製品※へ置き換える目標も掲げており、廃棄を前提としないものづくりへシフトしている。
- このインパクトは「気候の安定性」、「廃棄物」のカテゴリに該当し、自然環境面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
12.5：2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
13.2：気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。

※同社では、製品に使用される素材の全部または一部に、再生材など環境負荷低減に資する素材が採用されている製品を、環境配慮型製品と定義付けしている。

社会（Social）

高機能素材の提供による繊維産業への貢献

- 同社は、「素材で世界を変える」という理念のもと、高機能素材の開発・供給を通じて繊維産業の高度化に貢献している。同社の強みは、単なる糸メーカーにとどまらず、素材開発から紡績・加工・製品化までを一貫して担う“知識製造業”としての総合力にある。
- 技術面では、複数素材を組み合わせる混紡技術により、高強度・高弾力・耐熱・難燃といった多様な機能を持つ特殊繊維を創出できる点が大きな特徴である。例えば、植物由来の人工タンパク質繊維など新素材を既存繊維と組み合わせることで、吸水速乾性や耐久性など実用性能を付加し、アパレルから産業資材まで幅広い用途に展開している。このように、新素材単体では実用化が難しい場合でも、加工技術により価値を高める点が、繊維産業全体の技術発展に寄与している。
- 同社はベンチャーや異業種との連携を通じて、高機能素材の社会実装を推進している。バイオベンチャーとの協業により、石油依存を低減した新素材の開発を進めるなど、環境配慮型かつ高付加価値の製品を市場に供給している。こうした取り組みは、繊維産業が抱える環境負荷や差別化の課題に対し、新たな方向性を示している。さらに、生産体制においても競争力を高めている。従来外部委託していた燃糸工程を内製化するため、2026年に次世代燃糸工場を新設し、原料から製品までの一貫した品質管理体制を強化した。これにより、高度化する品質要求に対応しつつ、特殊繊維の安定供給が可能となり、顧客産業の信頼性向上に貢献している。これは国内繊維産業における高付加価値化とサプライチェーン強靱化にも寄与する取組である。
- 同社は、素材開発力、加工技術、一貫通貫の生産体制、外部連携を組み合わせることで、高機能素材の提供により、繊維産業全体の高度化と持続可能性の向上に大きく貢献している。
- このインパクトは「インフラ」のカテゴリに該当し、社会経済面のPIを拡大すると考えられる。
- SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

9.1：全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。

働きやすい職場環境の整備

- 同社は、人材育成・福利厚生・採用の各面から働きやすい職場環境の整備を進めている。
- 人材育成においては、現場教育と自己啓発支援を組み合わせた体制を整備している。新入社員に対しては入社後にビジネスマナーや企業理念、安全教育などの研修を実施し、基礎力を段階的に習得させている。また、日常業務においてはOJTを中心に、上司や先輩社員が丁寧に指導する文化があり、現場での技術継承と実践力の向上を図っている。さらに資格取得支援制度を設け、「色彩検定」や「公害防止管理者（水質）」など専門資格の取得を支援し、社員のスキル向上と専門性強化を後押ししている。加えて、整理・整頓・清掃・清潔・しつけからなる5S活動を軸に、働きやすい環境づくりと人材育成を一体的に推進している点も特徴である。

- 福利厚生においては、基本的な制度が整備されており、社会保険や財形貯蓄、借上げ住宅など生活面の支援を提供しているほか、住宅・家族・通勤など各種手当も充実している。さらに、産休・育休制度や社員旅行・社内イベントなどを通じて、従業員とその家族を含めたコミュニケーション促進や働きやすさの向上を図っている。加えて、社員から改善提案を募る制度を設け、職場環境の改善アイデアを評価・還元する仕組みを導入しており、現場主導で働きやすさを高める風土が醸成されている。
- 採用に関しては、年間を通じてインターンシップや会社見学を実施し、学生に実際の職場や社員との接点を提供することで、ミスマッチの少ない採用を推進している。また、新卒採用では複数職種で幅広く人材を受け入れており、継続的な人材確保に取り組んでいる。今後は毎年 10 名以上の新卒採用を継続するとともに、女性管理職比率の向上や有休取得率 80%の達成など、ダイバーシティとワーク・ライフ・バランスの強化を目標としている。
- このインパクトは「雇用」、「ジェンダー平等」のカテゴリに該当し、社会面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 8.5：2030 年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。
 - 8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

企業統治（Governance）

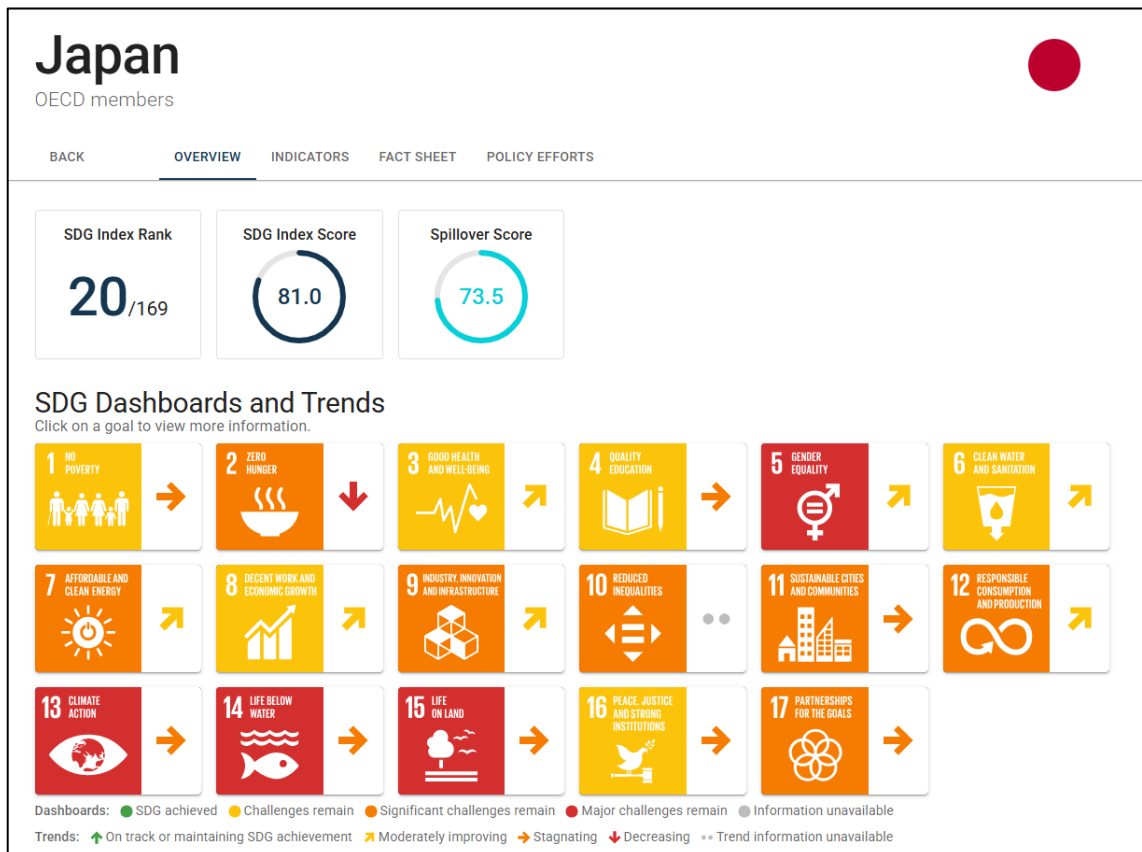
安全な職場環境の整備

- 同社は、過去の工場火災という重大災害の教訓を忘れず、「二度と災害を起こさない」という意識のもと、安全で安心な職場づくりに取り組んでいる。
- 具体的には、羽島市消防署の協力による初期消火訓練を実施するほか、自警団による防災活動を毎月複数回行い、万一の際に迅速かつ適切な対応ができる体制を整備している。また、これらの訓練を継続することで、従業員一人ひとりの防災意識と対応力の向上を図っている。加えて、安全衛生向上を目的とした会議を毎月開催し、労働災害の未然防止に努めている。
- このインパクトは「健康と安全」のカテゴリに該当し、社会面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

① 国内におけるインパクトニーズ

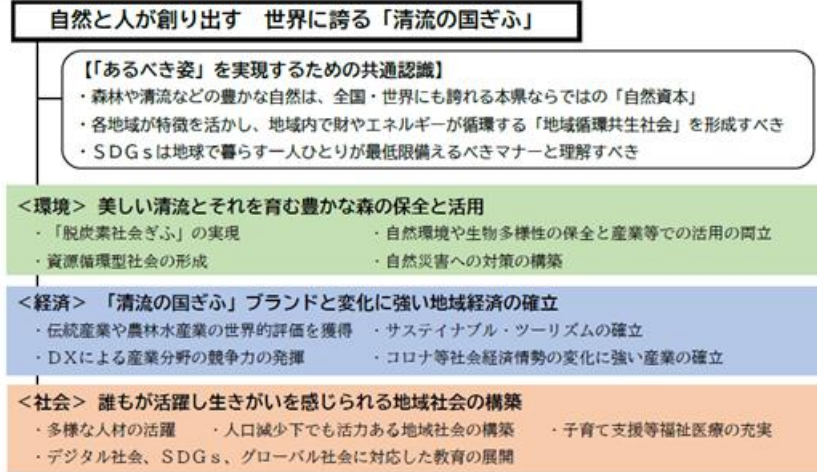
- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトに対する SDGs は、「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する」、「9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」、「12. 持続可能な生産消費形態を確保する」、「13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「12、13」において大きな課題が残る、「8、9」において、課題が残るまたは重要な課題が残っており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



② 岐阜県におけるインパクトニーズ

- 岐阜県における「SDGs 未来都市計画」を参照し、岐阜県における SDGs 達成に向けての課題を確認した。

2030 年のあるべき姿



③ 大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。
- 同社の特定したインパクトは以下の通り、大垣共立銀行の重点課題（マテリアリティ）と方向性が一致する。

同社の特定したインパクト	大垣共立銀行の重点課題 (マテリアリティ)
環境に配慮した経営の推進	気候変動対応、環境保全
高機能素材の提供による繊維産業への貢献	地域経済の持続的成長 地域のイノベーション支援
働きやすい職場環境の整備 安全な職場環境の整備	多様な人材の活躍推進

以上のように、大垣共立銀行は本件の取組みが、SDGs の達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。

3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する

環境に配慮した経営の推進

項目	内容
インパクトの種類	自然環境的側面において NI を縮小
カテゴリ	「気候の安定性」「廃棄物」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	・部門・工場別の CO₂排出量を可視化することで全社的に環境負荷低減の風土醸成を図るとともに、前年度対比で年 1%削減としている目標も見直す。また、具体的な削減手段として、LED への切替えや生産設備の省エネ化等により使用電力量削減を推進する
KPI	・2026 年度中に CO₂排出量の算定を開始し、削減計画を策定し、計画に沿った削減を進める ・2031 年度までに、自社で使用するフォークリフトのうち 30%をバッテリー式に切り替える (2026 年 6 月時点：15%【バッテリー式 4 台／全 26 台】) ※以降の目標は再設定する

高機能素材の提供による繊維産業への貢献

項目	内容
インパクトの種類	社会経済的側面において PI を拡大
カテゴリ	「インフラ」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・紡績工程の内製一貫体制を確立するとともに、繊維の高機能化・多機能化を追求し、多様化・高度化する顧客ニーズへの対応力強化を図る
KPI	・2027 年度までに売上高 100 億円以上にする (2024 年度 : 87 億円) ※以降の目標は再設定する ・2031 年度までに 10 社以上との新規取引を開始する (2024 年度末販売先数 : 253 社)

安全で働きやすい職場環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大 社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「健康と安全」「雇用」「ジェンダー平等」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・福利厚生の充実や有給休暇の計画取得推進等長く安心して働ける環境づくりに努めるとともに、地域の雇用創出に引き続き貢献する ・女性従業員がマネジメントを学ぶ機会を創出し、管理職の育成環境を整える
KPI	・2031 年度までに平均有給休暇取得率を 80%にする (2024 年度 : 67%) ・2031 年度までに女性管理職比率を 20%にする (2026 年 4 月末時点 : 10%) ・毎年継続して 10 名以上の新卒採用（高卒以上）を行う (2025 年度【2026 年 4 月】 : 10 名)

4. モニタリング

(1) 長谷虎紡績株式会社におけるインパクトの管理体制

- 同社では、宮本部門長を中心に、本 PIF におけるインパクトの特定ならびに KPI の策定を行った。
- 今後については、本件にかかる責任者を宮本部門長とし、SDGs の推進、ならびに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

(2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行とOKB総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、およびOKB総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行およびOKB総研がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利はOKB総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳および翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。